

事業名称	「千姫の小径」拡大ライトアップ事業
団体名・代表者	特定非営利活動法人あかりの街ひめじ 理事 山口政勝
協働の相手方	観光コンベンション室

目的	<p>趣きのある名がついた「千姫の小径」に光を当て、観光資源として、またシビックプライドとして知名度や価値の向上を図るとともに、暗さもあるこの歩道をライトアップにより、安全、安心の向上を目指す。</p> <p>今年度は、提案している照明環境が恒常的なものになるよう、地域と協力して取り組む契機とする。</p>
内容	<p>姫路城の西側、外堀を兼ねた船場川と中堀とを隔てる堤道がある。散策路として市民に愛用されているこの小径は、男山の千姫神社や千姫御殿のある西の丸にちなみ、「千姫の小径」と命名されている。この道の市之橋東詰めから北は清水門西まで、およそ500mに2～3m間隔で足下灯を設置し、観光資源・地域プライドの価値向上と、暗さの解消で安全、安心の向上を図る。</p>
事業経過	<p>7月10日観光コンベンション室他関係部署との協議開始、8月1日文化財課に現状変更許可申請書提出（観光コンベンション室、姫路城総合管理室にも使用手続き実施。すべて許可または認可済み）、9月2日工事着手。観光コンベンション室の立会、9月3日～9月17日ライトアップ実施（日没～翌朝）、通行量調査（9/11,9/25）、9月18日片付け等、9月24日第1回検証会議</p>
事業の効果	<p>通行量調査から、ライトアップ実施中は、平時よりもおよそ3割、通行者の増加が見られた。アンケート調査は実施していないので通行された方の声を集計していないが、2、3の方から明るくなった、いつまで？など事業を評価する声があり、ライトアップに関心を抱いていることがうかがえる。</p> <p>また、足元灯による明るさの確保が、この事業の目的のひとつである安全・安心に寄与したと考えている。</p>
今後の展望	<p>観光資源あるいは地域の宝としての価値は高いと思われるが、世に知られていない、表現、表示ができていないものは、この地に多くある。それらの価値を発見し、「あかり」によってその資源に光を当て、地域の誇り（プライド）となるような事業を提案し、その資源が恒久的に地域で輝く場となるような活動をめざしていきたい。</p>

#### 【実施団体の事業総括・感想等】

<p>助成額が、申請の半額となり、実施するかどうかを含め悩み、混乱し、苦労したが、実施の効果、成果はあり、やってよかったと考えている。期間中だけではあるが、暗さが解消され安全、安心が向上、また足元灯により光のリズムができ景観的にも質の高い場を提供できたと考えている。</p> <p>ただ、費用の面から、あかりの変化がワンパターンとなり、やや単調になったことは否めない。また最重要と考えていた地域との連携は、実施判断の遅れや主体自治会の選択の問題等で、当方からのアプローチができず、不十分なまま実施となったことは残念なことと考えている。</p>
---

#### 【協働の相手となった所管課の感想等】 ※実施団体は記入しないでください

<p>暗さの解消で安全、安心の向上を図ることができた点、また観光資源・地域プライドの価値向上を図れる点及び千姫の大河ドラマ誘致に向けたPRに繋がる点において市の施策に合致した事業であった。今回で2年目であり、この2年間で得たノウハウを活かして事業を行ってほしい。</p>
---